

平成 27 年度 第二回 京都市市民活動総合センター運営委員会

議事摘録

日 時：平成 27 年 10 月 5 日（月） 18：30～20：30

場 所：京都市市民活動総合センター ミーティングルーム

出 席：小暮 宣雄(京都橘大学教授)

有川真理子(認定 NPO 法人環境市民コーディネーター)

大石 尚子(龍谷大学准教授)

小谷 智恵(NPO 法人アレルギーネットワークびいちゃんネット事務局長)

河西 実 (NPO 法人フェア・プラス事務局長)

可児 卓馬(公益財団法人京都地域創造基金事務局長)

小嶋 進 (公益財団法人京都オムロン地域協力基金事務局長)

杉本 星子(京都文教大学教授)

鈴木 康久(京都府庁府民力推進課課長)

高嶋加代子(NPO 法人 NPO 法人京都コミュニティ放送企画室長)

菱川 貞義(株式会社大広 275 研究所所長)

平井 嘉人(平井株式会社代表)

福島 重典(税理士)

宮川 知子(公益財団法人京都市ユースサービス協会チーフユースワーカー)

欠 席：日下田貴政(株式会社京都新聞社編集局報道部次長)

牧村 雅史(京都市地域自治推進室市民活動支援課長)

森野 茂 (アルファトラベル株式会社代表)

事務局：平尾剛之・大矢野由美子・内田香奈・平尾元哉(京都市市民活動総合センター)

議 題：

1. 事案Ⅰ 京都市市民活動総合センターの事業支援について
「市縁堂（しえんどう）」11月7日 開催
2. 事案Ⅱ 指定管理第3期（～平成30年）における各種事業の京都市市民活動総合センターの運営（開催事業・広報等）に関する意見交換について

1. 事案Ⅰ 京都市市民活動総合センターの事業支援について

「市縁堂（しえんどう）」11月7日 開催

事務局：今回は、きょうとNPOセンターが、京都市市民活動総合センターの指定管理を京都市から受託して、新たな4年のスタートということで、新たに運営委員にご就任頂いた委員のみなさまから色々ご意見をいただきたいという思いでお集まりいただいた。今回も、このしみセンを市民社会に役立つというポジションで運営していくために、是非、皆さんの忌憚なきご意見をいただきたい。

座 長：本日の事案としては、11月に開催されるセンターの大事な事業（「市縁堂（しえんどう）」）の話と、

指定管理第3期の動き。特にこれから、この市民活動総合センターをいかに運営していくかということ、前回に引き続き議論いただきたい。

事務局：「市縁堂（しえんどう）」は、NPOや市民活動団体のことを応援する人を増やすため、寄付集めのイベントという意味も持たせて始めた事業です。

1年目は、会場で寄付を集めることが出来ず、応援メッセージを頂く段階に留まりました。2回目の昨年（2014年）から、会場でNPOなどがプレゼンを行い、来場者が寄付をするという設えにすることができた。その結果、団体にとっても自分たちの発信がどういう影響・反応を得るのかをダイレクトに知る機会にもなり、プレゼン団体と来場者ともに好評いただくイベントとなった。いくつか運営上の課題はあるが、今年度は2014年度のスタイルを基本に3年目として実施する。

この事業は、団体がプレゼンテーションをして、観客がその場で寄付をするという、全国的にもあまり例がないスタイルのもの。私たちは、「ほっておけない」という思いで何かを頑張って活動している人達を「ほっておかない」状況をどう作っていくかということをも市民活動の「入口」の大きな方向として捉え始めています。しみセンは活動する人たちを対象にするだけでなく、「(活動する人を)支援する人」を発掘することもメニューとして持つことが必要だと思っている。寄付をするという成功体験、経験が広がっていくとよいと思っている。

将来的には、多種多様な団体がエントリーする中で何百人という来場者があり、共感のもと、どんどん寄付が集まるような、京都市の一大イベントにまで成長できたらと考えている。共感してアクションが出来るような仕掛けを京都から一つ生みだすことができたという思いで、この市縁堂を育てたい。ぜひ、「育てる」という視点を持って、この事業とどう関わって頂けるかをイメージしながら、ご意見を頂けるとありがたい。

座長：「共感する取組みにメッセージや寄付で応援してください。寄付額等はその場で発表します」とは、具体的にはどういうイメージなのか。

事務局：前半4団体と後半5団体がそれぞれプレゼンテーションした後、30分間の応援タイムがある。そこで団体自身が寄付箱を持ち、来場者は直接団体に寄付あるいはメッセージカードを届けにいて、「会話」でも繋がっていただくというもの。最終的には、団体への寄付額や「こんなメッセージをいただきました」ということを共有する予定でいる。

座長：オプションには、庭園散策があったり、演奏会があったりとチャリティー感がある。

委員：私も市縁堂に関連するプレゼントレーニングのワークショップを担当した。プレゼンでどのような内容を発表して、どんな資料でどうPRするかという段階をワークショップで取り組んでいる。

非常に皆さん真剣に取り組んでいる。このままでは今後の継続的な活動が難しいと感じているものの、かといって、助成金では思った通りの活動がしにくい上に報告の義務という負担もある。そうしたものと違う財源を得るためにも、さまざまな部分で仲間作りやそのためのPR、伝えることの大切さをみなさん感じている。アイデアとしては以前にもお話していることでもあるが、できあがったプレゼンを聴くだけでなく、そうしたプレゼンづくりの場に一般の人たちが参加して、団体の何を知りたいか、応援する側としてどんな情報が発信されるとよいと思っているのか、ということ伝えるような機会があれば団体へのサポートにもなり、団体のファンづくりにさらに役立つ

のではないかと思う。

委員：去年見せていただき、すごくおもしろかったし、よかったと思ったが、プレゼンの力が団体によつてすごく違うことも感じた。活動内容はすばらしいが、プレゼンがうまくいなくて残念だったこともあった。毎年出場することで力を向上させるという考え方もあると思う。時間や場所の設定上、出場数が限られることは仕方がないが、去年の出場団体がいないことには理由があるのか。去年の団体への案内状況や出なかった理由があれば教えてほしい。

また、一部と二部という設定にすると、間の休憩時間で帰ってしまう人も多いが、来場者が終日いられるような工夫はされているか。

事務局：昨年のプレゼン出場団体には、昨年の経験をもとに寄付状況を踏まえた報告としての出場を依頼した。できるだけ多くの団体に（寄付集めのための）プレゼン機会をつくるという考え方にしたので、昨年から継続出場の団体はいない。実際には昨年の2団体からプレゼンへのエントリー希望もあったが、上記の考え方をご理解いただいた。

チラシには1・2部通しての参加も促し、間に音楽を入れて会場で過ごせるような組み立てにはしているが、とくに効果的な仕掛けは準備できていない。もしアイデアがあれば教えてほしい。運営委員の皆さんには、時間の許す限り1部2部通して見て頂きたい。

委員：昨年、前半だけ参加したが、その際にはイベントの目的が分からなかった。今、説明を聞いて、寄付につなげることを求めているということがわかった。初めて知る団体の財務状況が分からない中で、寄付をするというのはハードルが高い。他にもっと困っている団体はいないか、もっと違う活動をやっている団体がいるのではないかと、思ってしまう。たった5分のプレゼンでは、判断材料が少なすぎる。昨年は、寄付をした人は抽選会で協賛企業からの景品を貰えるなどして、何のための寄付なのか分からないモヤモヤ感が残った。「知る・理解する・共感する・行動する」という4つのレベルを、一度に求めるのは無理なのではないかと思っている。団体に興味を示す、活動をフォローアップする、寄付することを順に促すというのが順当な考え方ではないか。プレゼンの内容は、最低必要な情報だけでも統一して表現してもらおうとよい。

2. 事案Ⅱ 指定管理第3期（～平成30年）における各種事業の京都市市民活動総合センターの運営（開催事業・広報等）に関する意見交換について

事務局：資料3～6が、今からの事案参考資料です。資料6のグラフ、来館者の推移過去4年を見ると、ひとまち全館の来館者の減少に比例して、しみセンへの来館者も減っている。

しみセンHP等へのアクセス数は、平成25年度からツイッターやブログを開始した関係で、大きく増加している。しみセンの利用度として、来館者の減少分がHPのアクセス数の増加で補われているとは思っていない。団体や活動層の方が、相談のためにセンターへ来館していたものが、ネットで調べたり、ウェブ掲載しているQ&Aを見るなどしたことにより、わざわざ来所しなくても自分たちである程度の解決が出来るようになってきた。当センターのHPのみならず、色々なネット検索も活用されている。

団体の力が向上していることはよいことであるが、しみセンとして、市民活動全般の入口としての役割り、裾野を広げる役割としての責務という点では、不足していると考えている。館

全体の来館者が減少することに比例して、しみセンの来館者が減少するのではなく、ひとまちの来館者が減少しても、しみセンへの来館者が増加するよう、知ってもらふ努力を続けていく。

講座は従来の初歩講座、マネジメント講座、設立講座、実務講座など大きなカテゴリーでやっていたものを、テーマを設定して細分化しニーズに合わせるようにしている。講座によっては、参加人数や定員に対する充足率に差がある。講座・広報を含め、当センターは無関心層を関心層へ誘う、関心層は活動層へ繋げていくことを第一の視点として方向性を考えていく。このような前提を含め、委員みなさんの見識から方向性や視点などをご意見いただきたい。

委員： どういう人たちを対象に広めていくかということですが、ある程度は関心層や NPO で活動したことがあるという層が対象になるのではないかと。ターゲットを見定めてターゲット別に取り組みを絞って、受け手に「私に言ってくれている」と思わせることが大切。例えば「こういう人に呼び掛ける」と決めて、キャンペーンサイトを作る、「春はこういう人を対象にする」などすれば、新聞・ラジオ・フリーペーパーなどでも PR しやすい。NPO に縁もゆかりもなく、意識していない人にも NPO とつながる接点をつくることになる。

事務局： 下期は大きな方向性を 4 つ持っている。

①市内に 13 箇所あるいきいき市民活動センター（地域に根差した市民活動の拠点）と協力、情報交換しながらお互いの役割分担とメリット、デメリットを補完するような関係づくりをしている。

②HP の改修。ひとまち交流館の 4 センターで統一のフォーマットがあるが、発信環境が限られていて、それを変更するには資金的にも手間的にも大掛かりになる。交流館の管理部や京都市とも調整して、現在の 4 センター共通のインターフェースはそのまま残しながら、別サイトでしみセン独自の発信環境づくりをすすめている。新しいサイトでは、ブログや映像も活用して、当センターの機能を広く発信するとともに、団体の広報ができるようにしていきたい。

③施設としては来館者が減るのは、大きな問題ではある。しかし、来館者が減ったから市民活動をする人がいなくなったり、当センターが不要になったわけではない。指定管理者として来館者を増やす努力をすることは、重要だと思っている。例えば、毎週日曜日にフェアトレード朝カフェをすとか、幼稚園の子どもたちの絵画展を開催することによって保護者や地域の人に来てもらうという案も考えている。施設の運営規定としての縛りもあるが、大切にすべきことは何かを見極めながら調整していきたい。

④講座に関しては、参加者が少なくともやり続ける必要があるタイプの講座もあり、参加人数だけで判断できない部分もある。一方、日々の相談内容の傾向を踏まえて新たに開設する講座もある。NPO 法人と一般社団どっちがいいのか、法人格は取らない方がいいのではないかとこの相談は非常に増えていることから、今年度は、「法人格の選択」という講座を新設した。また組織の意思決定の仕方（理事会・総会について）についても、初めて講座を開設している。

委員： 仕事柄、しみセンは身近で青少年活動については NPO のことよりもボランティア活動のことで連携させて頂いている。しかし、一市民としてセンターを活用しているかという点、ほとんど活用していない。いきいき市民活動センターが地域を支援する、という広報をしているのは見たことがある。一方、しみセンは市民活動のスキルが高いイメージがある。もっと身近に感じてもらえるような取り組みや仕組みが解けるとよい。ホールで NPO の活動がお祭りみたいなイベントになって、活動の話が聞けるとよいのではないかと。

NPO は自分にとっては身近だが、設立するとなるとそれまで縁のなかった人たちには難しく思える。いい活動もいっぱいあるのだから、知ってもらえる機会があればよいと思う。

委員：この講座や企画に、利用者からのリクエストや意見を反映させては？

事務局：たくさん声があるから講座をつくるということもできるが、私たちのスタンスは牽引していくところもあるので声が出たからやるのではなく、声が出る前にやる要素が強い。こういうことが必要だと察知するフロント機関なので、声があがってからのスピード感では違う役割かと思う。

事務局：法人としては、職員がほかの NPO の活動や運営に参画することもすすめている。職員自身もしみセン以外で情報収集して、センターの運営に活かしている。しみセンの職員であり、きょうと NPO センターの職員であり、違う団体の社会的役割を担わせてもらって、アンテナの役割をすることも大事だと考えている。

委員：しみセンの役割をボランティアという切り口でみたとき、「ボランティアとは何ぞや」という感じにくる人は少ないのではないか。「ボランティアをやりたい」という人は、何をやりたいのか意識や関心を持っている。クラウドファンディングのサイトなどをみるとテーマを色々変えて興味ある人が集まってくる努力をしている。しみセンでもボランティア情報を掲載しているが、当団体には、Yahoo ボランティアや JICA でボランティア情報を見て来る人はいるが、しみセンの HP を見て連絡してきた人はいない。分野やカテゴリー、特集で取り上げるなど先ほど意見で出ていたようにターゲットを意識した方がいいと思う。

委員：現状で完璧に近いと思っているので、悩まなくていいと思う。京都府で 10 年前にセンターをつくったときは、町家保全の取組みをしていた方に活動について話をしてもらったことがあった。京都府在住ではない人も含め 100 人以上が話を聞きに来た。毎月一回、NPO の活動を紹介する、聞けるイベントなどをやってはどうか。環境分野の団体については、もともと知っている人が多いけれども、歴史系などであれば集まるのではないか。

各階ごとに利用者は違うが、客層は近いと思うので、ひとまち交流館全部を知る日を作ってはどうか。自分の活動に関するセンターや団体のことは分かるが、関係のないセンターや団体についてはイメージだけしかないところもある。

しみセンの特徴で全国にも誇れるものは、助成金の情報量だと思っている。それを知ってもらったら、利用層が増えると思う。それと、協働という視点から、京都市の「100 人委員会」をしみセン開催してはどうか。100 人以上いるメンバーでも市民活動が初めての人も多い。きょうと NPO センターとして運営している市の事業とも連携させてよいのではないか。

5 万人来館者数が減っているのは、しみセンで作業をする人が減っているのではないかと思う。距離も関係あるかもしれない。府のセンターに来る人は、近辺の方とか車でくる方とか京都府っぽいところでやりたい人、しかも無料で出来るところがいいと思う人が来る。作業する場所は、各市町村がそろえ始めているので、わざわざ来なくてもよくなっているのかもしれない。

委員：「しみセンの役割は、市民活動全般における裾野を広げていく役割だ」と聞いて、改めてそうだったのかと思った。昔は、ここしか場所がなく、しみセンに来館すれば情報が得られた。10 年たって、

しみセンに来なくても解決できることが増えたかわりに、来ても解決できないことも出てきた。そうしたことを相談できる場所があったらと思う。自団体は活動 11 年目になるが、初めてしみセンの HP にボランティア募集を掲載したら沢山の問合せがあり、2 名にボランティアをお願いした。始めのころは自分たちが市民活動をするためにしみセンに来ていたが、10 年がたち市民活動をするための情報をしみセンに提供して、今から市民活動をする人たちと繋がることで利用した。市民活動の裾野を広げて、NPO とこれから始める人との相互を結び付けていく役割をしていることは強みだと思う。

講座内容はこれから市民活動をはじめようとする人、これからどうしていこうかという人のための組立てで裾野を広げていく内容ではある。しかし、これからたくさんの人や資源を巻き込みたい、と考えている NPO 側への講座があるとさらによいと思う。

S0 に入居していた経験から考えると、しみセンの強みは市民・企業・大学・NPO などを繋げていける場所だということ。他の団体とのご縁を作る場所だということを出せるといい。

委員：団体のスタートアップ時期に集中して、色々なニーズや蓄積が活かされればいいと思う。

事務局：しみセンでできることと、(指定管理者である) きょうと NPO センターでやらなければならないことは、役割分担がある。ただ、相談に来られる方は何かで困っておられる方なので、そうした役割や権限を無視して、解決まで伴走してしまいたくなるケースもある。そうすると相談者の満足度は上がるが、しみセンはどこまでが対応可能な範囲かということの調整が難しくなる。しみセンでは解決できないことを、求められる場合も多い。どの段階で、きょうと NPO センターの業務として切り替えるかのスイッチが難しい。

委員：税理士として、30 分～40 分の会計相談に対応している。相談者の満足度で言えば、(来てもらうより) NPO に行き行ってやるほうが満足度が高い。大阪の産業振興センターなどでは、登録している企業・団体に個別コンサルをする仕組みがある。しかし、それはしみセンの役割ではないと思う。しみセンとしては、ある程度、広く浅くいかざるを得ないだろう。そこから先は、きょうと NPO センターなり、我々など専門的に行っている人たちがやることだろう。住み分けは難しいところだが。

委員：府のセンターでも、交流する場を作ったらどうかと言われて行ったのが「コラボカフェ」だった。テーマを立てて 100 人規模で集まり話し合うが、それで問題が解決するわけではなく、知り合うというレベル。もうワンランク上の「プロアクションカフェ」というものも行ってた。1 人がテーマを提供し、それについて 5・6 人が提案をする時間を 30 分程度設ける。自分が困っていることを話すオープンスペース的なイベント。いずれにせよ、問題解決という視点では限界がある。さらにもうワンランク上の伴走型というなら、府では「プロボノ」を実行している。府の事業ではないが、「公志園」のように、6 ヶ月間の伴走型で 5 回のプレゼンテーションを行う事業もある。伴走する人も京都でもトップ企業の方、大学のトップの先生たち。しかし、それはしみセンとしてではなく、きょうと NPO センターとして行う内容になるのだろう。

事務局：私たちも、しみセンでできないからといってやらないのではなく、出来るところにつなげたい。ネットワークを作りながら、自分たちの限界はどこまで、それ以上に求められるものへの対応は、連携軸で考えていくのがしみセンの役割だと思う。

委員：創業者を集めて育てる仕事をしているが、創業して間もない方たち同士で交流してもそこから何か
が生まれることはない。それは、同質的な人たちが集まっているからだ。異なる文化や異なる人が
集まってこそ、新しいものが生まれる。たとえば、創業したばかりの人たちに実績のある経営者が
加わる、全く別の分野の方が入るなど、何か異質なものが混じることが必要だ。しみセンは非営利
の市民活動にかかわる方が集まるので、それとは異質なものを注入する取り組みや仕組みがあつた
らいいのではないか。ファンドレイジング、資金調達に詳しい方や収益をどうあげていくかなどに
詳しい方など、市民活動以外の異なる要素を注入するのはどうか。

委員：異質な人が来る場であり、同質の方がくる場でもあり、助けてくださるようなご縁を頂いた場でも
ある。その時の縁に感謝している。市縁堂にもあるように、ご縁をつなぐ場であることが、みんな
に知れ渡るといいと思う。窓口で声をかけてもらおうと嬉しいし、情報もいただけるのでみんなが帰
ってきたい場所、みんなが繋がれる場所という取り組みが出来たらいい。

委員：講座もサービスも充分整って、講座を受けたらある程度のレベルまでいけると思う。一方で、お世
話すぎ、親切すぎる印象もある。団体自身が、これから苦労ながらも自走していけるような機会
もつくといいと思う。伴走というよりは、先導しているような印象を持つ場合もある。もともと、
NPOをやろうと思う人は自分でどうにかしたいという気持ちがあつて、そのために色々なことに
挑戦していくエンジンというか気力がある。それを応援するためのサービスだと思うが、場所も設
備もあまりにも揃っているので、そのせいでエンジンがゆっくりになってしまうケースもある。甘
えてしまう人がいるのではないかと思うので、活力を与えるような機会があつてもいいのではない
かと思う。

座長：大学のキャリアセンターでは、学生が自分たちで会社にアポを取って会社挨拶をする機会をつくる
と勉強になるそうだ。「人集めをするプログラムをつくるワークショップ」を開催して、その参加者
が作り上げたものをNPOに提供することもできるのではないか。

京都府のものづくりに関する話では、老舗の後継者がいない一方で創業したい人がいる。その両
者のマッチングを行政がしているが、市民活動でもマンネリ化しているところとこれからやりたい
ところが出会う場があればいいかなと思う。

事務局：運営委員会は、きょうとNPOセンターが皆さまに委嘱をさせてもらって、しみセンを応援しても
らっている強力な応援者であり仲間だ。一方、評価委員会という機関もある。評価委員会のしみセ
ンに対する評価は、一言でいえば「やりすぎ」、京都市に対しては「やらせすぎ」というもの。た
だ、私たち自身はやりすぎだとは思ってなくて、むしろ、やりたいことをやれないストレスとい
うか、ジレンマがある。しみセンに来ていただくために、フェアトレードの朝市や大学の音楽団体
のクラシックコンサートの開催など、色々な案は考えられる。みなさんのご意見をいただきながら、
指定管理者からの提案だとブレーキが踏まれがちなものも、運営委員のような立場からの提案だと
実現に向かうような場合もあるので、ぜひご意見を頂きたい。条例施設なので、出来そうで出来な
いこと、やれそうでやれないことがある。一つひとつ実現していくのが戦いでもある。その成果と
して残していけるものは何か、その成果をみなさんと共有していきたい。今後は、この施設がどう
使われていくのか重要だと思う。市民活動支援施設だといっても、市民活動をしている関係者だけ

に来てもらっても、先細りになる可能性はある。まだ市民活動にかかわっていない人が来てさまざまな市民活動を知ったり、大学にない公共政策関連の本をしみセンの図書コーナーに読みに来て、ちらしなどでNPOの存在を知るきっかけになったりするとよい。この施設そのものもいい来館者を増やすこと、また行政施策や税金を使って行政サービス・市民サービスができる施設であることも考えていかないといけない。

座長：評価の場合、客観的な数字が必要になる。活動に悩んでいる人たちが来館して、人数は1だけどこにいて別の人と出会ったことで10年先の社会が変わるといふのと、1000人集まって2時間でおもしろかったけど、そこで見たもの聞いたものが忘れられてしまうのと、どちらが適切な評価になるのだろうかと思う。一般的に伝えられない部分はあると思うが、実質的な評価を市の方にもっとして欲しいと思う。伝える努力のなかでも、様々な施設や機関はそれぞれの役割がありながらも分断しているのではなく、どのようにつながっているのかという姿や道筋を伝えることが必要だと感じる。そうしたことをHPなども活用して伝えられるとよいのではないかな。

NPO支援については、京都府も京都市も頑張っていて、京都市民はメリットが大きいということをよく分かってない部分もあるのではないかな。府と市あるいは、ほかにもユースサービス協会なども並べてみたら、取り組めていない隙間があるかもしれない。そういう隙間が見つかるとう「できてない」と言われるのかもしれないが、チェックしていくしか仕方がない。

委員：「NPOウィーク」といったものを開催しては？しみセンを利用している団体でイベントしたいところを並べて紹介する。たとえば、「環境月間」として京都市内の環境系NPOが全部集まってイベントをしたら、「京都って環境すごいよね！」と新聞やTVにも取り上げてもらうこともできる。できないことはないと思うし、予算も集めればいい。3・4回会議したら、普通なら5000人しか集まらないところを40000人集まるイベントになるかもしれない。

委員：テーマでPRするというのは賛成。あいちコミュニティー財団では、NPOに融資をしている金融機関の職員のテンションが上っておらず、これではNPOへの支援が進まない気づいて研修を始めた。金融機関の職員に、NPOに支援をしませんか、関心ありませんかと聞いてもあま反応がないが、地域を普段まわっている中で気が付いたこと、心配なことなどはないかと聞いたら、意見があがってくる。老人の身体のことや地域の高齢化のことなど、いっぱい出てきて、そういった問題をこういったNPOが取り組んでいるということをお知らせすると「なるほど！」となる。NPO活動に関心がありますか？ボランティア活動に興味ありますか？と聞くと、もともと興味を持っている人しか関心もたない。でも、そういう人は、いずれ何らかの形でかかわってくれる。環境のことなり福祉のことなり、市縁堂にもあがっている多くの課題はみんなが心配しているはず。今後は、そうした心配や気がかりにアプローチする情報発信をやると、多くの人をまきこめるのではないかなと思う。時代も変わっているし多くの人を集めるのは難しい。それぞれの事情もあるだろうし迷う。関心を持つ人を増やすということでは、ワールドカフェでもやってはどうか。

座長：しみセンが主催すると目的外と言われるなら、しみセンの講座に参加した人たちで、自分たちが人を集めるプログラムを作って実施するという方法もあるのでは。

委員：活動で学生などを連れてくると、こういう施設があることを知らない。インターンで来る学生でも

知らない。企業をリタイアした後にボランティアする人が多いと思うが、いきなりデビューすると大変だと聞くので、企業とタイアップして、退職（市民活動デビュー）2・3年前からしみセンに来てもらったりして何かできないか、と思う。

委員：生の声や体験が行きかう場が必要なのだと思う。運営面の課題についても一般的な講座というよりも、「こういうつまずきがあった」という体験に基づく生の声は励みにもなった。何かやってみようかと思う人にインターンやボランティアで現場に入ってもらって、生の声が届くようにするとよいと思う。

委員：インキュベーションに近い考えかただと思う。EUでもイノベーション促進のために、政策としてネットワークづくりを進めている。場所を提供してテーマごとに一定期間集まりを開催し、仲間で意見交換したうえで事務局がマッチングする取り組みがある。しみセンでは、どんなネットワークの作り方をしているか聞きたい。NPOを立ち上げた人たちが、メンバーとしてネットワークをつくったりできる場を設けているか？そうした場を作ることで月1回集まる機会を作りますよとか、活動を始めた人たちが集まって話す場になるといい。ニーズはあると思う。

事務局：現状ではネットワークづくりにはあまり取り組めていない。京都府で約1300団体、市で約820団体NPO法人があるし、任意団体まで増えると数えきれないが、そういう人たちのネットワークの拠点になるのは大事かもしれない。

委員：インターネットのアクセス件数が増えている。事務局からは来館者数を増やさなければという発言もあったが、私は来館してもらわなくても、HPのアクセス件数が増えて、しみセンの活動が理解され、そこから活動がスタートすればいいと思っている。

アクセス件数の増加は、どういう人が増えているか、という分析をしているだろうか。「京都・ボランティア」で検索すると、しみセンが出てこない。私が全くNPOや市民活動を知らない状態でアクセスしようと思ったら、「京都・ボランティア」で検索すると思う。ここでしみセンが出てこないのはスタート時点でマイナスだと思う。どうすれば検索で上位にあがってくるか、盛り込むキーワードの再考も必要ではないか。

市民活動やNPOを知っている方が、より便利にここまでくるのをペースアップするのか、初めての人がしみセンにたどりつけるようにするのかによって、アプローチが違うのだと思う。

委員：この運営委員会自体が、縁を結ぶ場になっているというのを改めて実感した。色々なところで色々なことをやっているけれど、全体として見えないというのが市民の実感だろうと思います。大学も地域連携といって、今いろんな授業がありますが、それも別々の団体と繋がっているみたいで、全体が見えない状態だ。そうした「見えない状態」を何らかの形で見えるようにしていくのも、しみセンのひとつの役割かなとも思い、考えさせてもらいました。ありがとうございました。

事務局：長時間いろいろご意見いただき、ありがとうございました。

終了